

佐藤 薫先生 推薦

『月の影 影の海』十二国記シリーズ

小野不由美 著



読書が好きです。どちらかといえば小説をよく読みます。本の紹介をお願いされた時に、何が良いかとても迷いました。去年読んで感動した本、川越宗一著『熱源』にしようか。実在の人物をモデルにしたアイヌ民族とポーランド人の2人が同化政策にのまれながらもアイデンティティを求め、生きるための熱を与えたものをさがす物語。それとも夏休みの課題図書にもなったことがある、小手鞠るい著『ある晴れた夏の朝』アメリカ在住の高校生が広島・長崎に投下された原子爆弾の是非についてティベートする物語。と何冊も思い浮かびました。ここでタイトルをあげてしまうぐらい読んで欲しいと思ってしまうのですが、あえておすすめするならば、小野不由美著『月の影 影の海』十二国記シリーズです。

「お捜し申し上げました」——女子高生の陽子の許に、ケイキと名乗る男が現れ、跪く。そして海を潜り抜け、地図にない異界へと連れ去った。男とはぐれ一人彷徨う陽子は、出会う者に裏切られ、異形の獣には襲われる。なぜ異邦へ来たのか、戦わねばならないのか。怒濤のごとく押し寄せる苦難を前に、故国へ帰還を誓う少女の「生」への執着が迸る。シリーズ本編となる衝撃の第一作。(新潮社公式HPより)

最初に手にとったのは、高校生の頃です。当時、「少女小説」全盛期・・・いまでいう「ライトノベル」のジャンルでしょうか。明るく楽しいファンタジー小説を期待して読み始めたのですが、暗く救いがない様子に絶望して読むのを中断してしまいました。

大学生になって時間ができた際に、再チャレンジしました。あっという間に物語のもつ世界観にのめり込んでしまいました。当時、出版されていたシリーズ6冊を続けて読みました。

そして、この物語は最初に出版されてから30年以上たっています。それでもまだシリーズは完結していません。どちらかという生徒の皆さんよりも保護者の方が同じように続きを待っているかもしれませんね。その間にアニメ化されたり、出版社が変わって再発売されたり、続きを最大13年間も待ったこともありました。待ち続けている間に、何度も読み返しました。その度にドキドキハラハラ。主人公と同じように落ち込んだりもしました。そして、読んだ時の自分の心模様が反映されて感じ方が違ったりもします。これが読書の醍醐味の1つかもしれません。

迷った挙句になぜこのシリーズなのか？と問われると、皆さんに何度も読み返す本に出会って欲しいと思っているからです。本の好みは性格が反映されているなとよく思います。誰かがすすめる本が必ずしも自分にピッタリくるとは限りません。だけど、たくさん読むと自分にじっくりくる本、おすすめしたくなる本、何度も読み返したくなる本に出会います。心を豊かにしてくれる本に出会えますように。

良いお年を  お迎え下さい



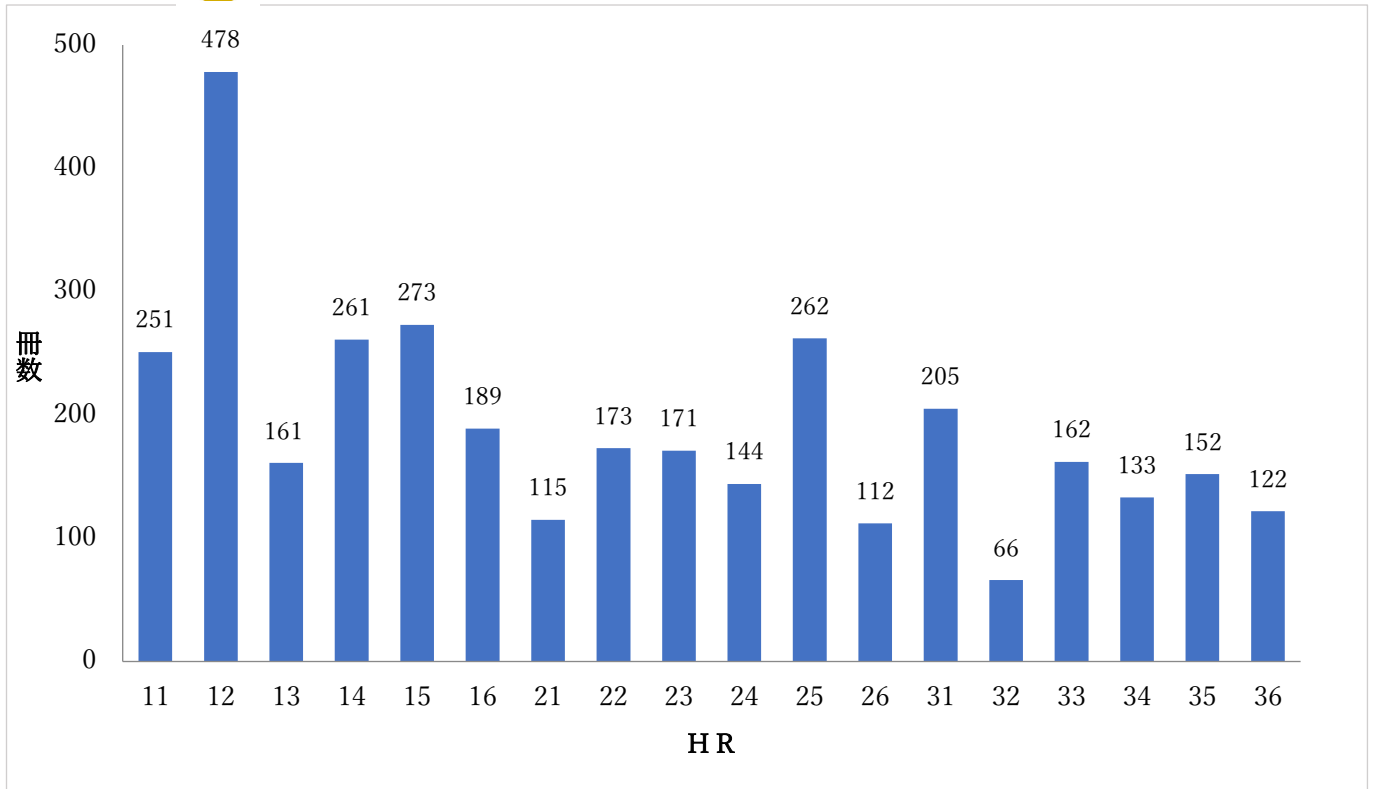


## 令和5年度1・2学期読書量調査の結果



全校総数3,430冊、クラス平均191冊、一人平均4.8冊でした。

来年もたくさん本を読み、視野を広げましょう。



### 【クラス別一人平均読書量】

11	12	13	14	15	16	21	22	23	24	25	26	31	32	33	34	35	36
6.1冊	12.0冊	3.9冊	6.4冊	6.8冊	4.6冊	2.9冊	4.6冊	4.3冊	3.5冊	6.2冊	2.8冊	5.4冊	1.7冊	4.3冊	3.5冊	3.7冊	3.2冊

### 【1・2学期のベストリーダー】

1位	50冊	星之内 琥弥太(15HR)	6位	24冊	相場 ひみこ(12HR)
2位	40冊	深田 康平(11HR)	7位	23冊	永井 聡倫(12HR)
3位	37冊	佐藤 拓夢(12HR)	8位	21冊	鈴木 日奈(25HR)
4位	36冊	鴉 愛佳(25HR)	9位	18冊	柴田 舞(25HR)
5位	26冊	佐次本 絆空(12HR)	10位	16冊	中根 悠那(12HR)
			//	//	藤谷 奈緒(12HR)